

東区彩るれんげプロジェクトーミツバチと笑顔の花を咲かせようー

校舎の屋上でミツバチを育てるなど、持続可能な社会を目指し活動する愛知商業高等学校ユネスコクラブ。ミツバチの蜜源としても知られる「れんげ」を通して地域のコミュニティの輪を広げ、笑顔と幸せが溢れるようにと、高校に隣接する東槿木公園に地域の皆さんと共にれんげの種をまきました。日頃からこの公園の世話をしている東槿木公園愛護会会長の高木信夫さんは「私たち地域と高校生が共に活動することは、お互いプラスの体験になると思う」と目を細めて話します。ユネスコクラブ部長の金丸愛さんは「コロナ禍で恒例のイベントが中止になり、地域とのつながりが薄くなっている中で、地域の皆さんとプロジェクトを始めることができました。この活動が長く続くように大切に世話をしていきたい」と思いを語ります。かつては春の田畑に一面に広がっていたれんげ畑。ミツバチの蜜源になるだけでなく、れんげの花を見た区民の皆さんがふるさとや子どもの頃の懐かしい思い出を呼び起こす「記憶の蜜源」になるように、との願いを込めて大切に育てていきます。

愛知商業高等学校ユネスコクラブ

2011年より「文化のみち」エリアの持続可能なまちづくりに貢献するため、校舎の屋上で養蜂活動を開始。屋上で採れたはちみつを使用したご当地スイーツの開発や「文化のみち」を巡る観光ツアーの開催など、地域に根ざした活動を行っています。また、SDGsの視点からフェアトレードやエシカル消費の普及・啓発にも取り組み、高校生ならではの発想を活かしたさまざまなイベントの企画・運営を行っています。

令和2年10月28日 種まきの様子



令和 3 年 4 月 9 日 れんげの花が咲きました！

愛知商業高等学校ユネスコクラブの皆さんが、地域と連携して始めた「東区彩るれんげプロジェクト」。
東槿木公園に植えたれんげの花が満開になりました！



当日は、愛知商業高等学校ユネスコクラブ・東槿木公園愛護会・東土木事務所の皆さんが集まり、満開のれんげを祝いました。

令和 3 年度ユネスコクラブ部長の中村さんは、「今後も地域と連携し、笑顔があふれるまちになるような活動を続けていきたい」と思いを語ります。

地域コミュニティの輪を広げ、笑顔と幸せがあふれるようにとの願いを込めて始めたプロジェクト。

今後も行政・地域・学校が連携し、まちのためになる活動を続けていきます。

